

馬場 将輔：日本藻類学会第22回大会エクスカージョン (海中林観察) 参加記

1998年3月末に下田市の下田東急ホテルで開催された日本藻類学会第22回大会のエクスカージョンが3月27～29日に行われた。27日の学会終了後、筑波大学下田臨海実験センターに集合してエクスカージョンの日程を確認した。夕食後、三重大の前川先生からアラメ・カジメ海中林についての話を聞くために実習室へ集合した。ここでは、同時に開催されているワークショップの参加者たちといっしょになり、前川先生の意見が反映されたというNHK教育放送のE T V「よみがえる海の森林」のビデオをみた。この番組では海中林が衰退した海域の様子や現況、さらにアラメを母藻や幼体で移植する試みが紹介されていた。この移植作業の後日談はとても興味のある内容だった。また、海中林の更新についてもわかりやすい説明があり、



ワークショップ、エクスカージョン合同の講義。講師：前川行幸氏（三重大）

ギャップ相をみるには今の季節がちょうどよく、大きな個体が多い場所と小型個体が多い場所を注意して探すの良いとのことだった。

28日の天候は良好で、海は前日の時化がおさまり穏やかだった。朝8時30分に集合して準備が始まった。海中林観察はワークショップに参加した6人と合同になり、13人が参加した。まず、スノーケリングのグループ分けが行われ、はじめて海中林に接する人、何度か海中林を観察したことのある人、海藻採集を目的とする人、などを基準にした3、4人程度のグループに分かれた。

観察はセンター前の鍋田湾で実施された。各グルー

プにはワークショップの講師と筑波大学の人たちが付き添い、手厚く見守られながらスノーケリングが始まった。参加者は講師の案内で水面を移動しながら、それぞれアラメやカジメの海中林の様子をみていた。私の参加目的は海中林をみながら、アラメ林床部の岩盤に生えている無節サンゴモを採集して生態写真を撮ることだったので、シオグサやいろいろな海藻を集めたい人たちも加わった採集グループを案内をしてくださった水産大学校の村瀬先生は苦勞されたことでしょう。アラメ林床部には色彩豊かな無節サンゴモ類がモザイク状に生えていることが多いが、観察会に参加された人たちはこれらの無節サンゴモの存在に気付いたのだろうか。

1時間ほど観察を続けたあと、センター前浜の浅瀬へ移動した。泳ぎながらアマモ場をみる人たちもいた。観察終了後、海藻を採集をした人たちはそれらを広げて種名の確認作業をしていた。夜になると懇親会があり、翌日午前中に解散となった。最後に海中林を案内していただいた方々に御礼申し上げます。

エクスカージョン（海中林観察）参加者氏名：飯田勇次（唐津市立湊中学校）、菊池則雄（千葉県立中央博物館）、金高卓二（大洗水族館）、鶴岡英作（国立大洲青年の家）、馬場 将輔（海洋生物環境研究所）、林田文郎（東海大学）、矢部和夫（北海道東海大学）

(945-0322 柏崎市荒浜4-7-17 (財)海洋生物環境研究所実証試験場)



エクスカージョン風景。センター付近の磯にて。